

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	7	学校名	伊豆総合高等学校土肥分校	校長名	所 康俊
------	---	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	教育相談機能の発展的継続により、生徒のこころの安定とからだの成長を図る。	特別支援教育について年間2回の校内研修の実施。	6月と2月に校内研修を実施。	A	教育相談連絡会も毎月開き、校内での情報共有と協議を通して個別生徒への理解が深まった。ケースワークや具体的な生徒対応のスキルが学べる研修や、精神科医などのアドバイスを直接受けられる研修の企画を検討したい。
		教育相談連絡会の月間1回の実施。生徒アンケート「困ったときに相談できる人がいる」の“当てはまる”が80%以上。 年2回の生徒アンケートや、生徒からの申し出によるいじめ事案の早期発見・早期対応の実施。	生徒アンケート82% アンケートを年2回実施。	A	1・2年では年度当初から、いじめ含む人間関係について早期対応をした。3年生は生徒の成長により、落ち着いた人間関係の中で学校生活を送ることができるようになった。 引き続き、いじめに限らず、人間関係のつまずきの早期発見・早期対応の心がけを教職員間で共有し続けたい。
		生徒アンケートで「学校や社会のルールやマナーを守って行動している」が95%以上、保護者アンケートで「土肥分校生は、挨拶や言葉遣い等がしっかりと出来ている」と地域アンケートで「本校生徒の服装・頭髪等は高校生らしいと思います。」が75%以上。	生徒アンケート91% 保護者アンケート80% 地域アンケート80%。	B	生徒の自己評価は高いが、教員目線では規範意識の低さを感じる場面がしばしばある。 地域からは「生徒の姿を見かけることがあまりない」という意見もある。 規範意識を高める取り組みを、学校全体で進めたい。
		新体力テスト8種目中4種目で、前年度（1年生は春）の記録を更新した生徒が60%以上。	4種目以上での記録更新57%	B	今年度は1年生の向上が顕著だった。 2・3年生が継続的に体力向上に主体的に取り組めるような工夫を検討したい。
		1日3回の食事を摂り生活リズムを作る。朝食摂取率90%以上。定期的な生活実態調査で、実態を把握する。健康講座を通して健康への関心高め、健康な生活を実践できるよう継続的に指導する。毎日、6時間以上寝ている生徒80%以上。毎日、規則正しく生活している生徒70%以上。	朝食摂取率83% 毎日6時間以上寝ている生徒83%	B	朝食摂取率は、県平均である95%に近づけるよう朝食の重要性について、生徒及び保護者に対してもアプローチを行っていきたい。睡眠については、数値は増加しているものの、規則正しい生活習慣の確立には依然として課題が残るため、生徒の実態に応じた取り組みを検討する必要がある。

様式第3号

イ	生徒一人ひとりに対応した学習指導、進路指導体制の確立を図る。	生徒アンケートで「学校は、進路について計画的に指導している」が80%以上、「進路行事によって、将来の仕事への意識が高まった」が80%以上。	生徒アンケート「進路について計画的に指導している」84% 「進路行事によって、将来の仕事への意識が高まった」73%	B	進路ガイダンスの実施により、特に1年生の学校生活の安定と意欲の向上に繋がった。また2年生の進路意識も向上した。 生徒の職業への理解が不十分であることや、生徒の希望に沿ったガイダンスの実施が課題。進路研修の実施やガイダンスの形態の工夫で、生徒の進路意識を向上させる必要がある。また3年生の進路意識の向上や主体性の育成も課題。
		生徒アンケートで「本校入学後、学力が向上した。」「当てはまる」が60%以上	生徒アンケート82%	A	欠点科目累計14科目、欠点科目取得者8人という結果は、昨年の結果よりも大幅な減少であった。 授業展開から学習の質向上を目指した指導計画の確立を目指す。学力差と進路目標の異なる生徒が混在する授業について、個別対応の可能性を探る。
		生徒アンケート「授業の内容がよくわかる」の“当てはまる”が80%以上。	生徒アンケート93%	A	多くの生徒が授業内容を理解できている実態が確認できた。日々の声掛けや個別・添削指導により、学習へ向かう意欲が向上した。 アンケート結果は良好でも、生徒間の理解度には大きな差（二極化）が見られる。授業は「楽しい・分かりやすい」レベルに達しているが、学問的な深掘りや、大学進学を見据えた高度な授業展開には課題が残る。「個別最適な学び」の確立が急務。
		生徒アンケートで「朝読書・朝学習の時間を有効に使っている」が80%以上	生徒アンケート80%	A	全学年を通じて朝学習や朝読書の時間が、落ち着いた学校生活の導入として機能している。 低学年では学習成果への具体的な結びつけが、中堅学年では「スタディサプリ」等を利用した個別最適な学習の更なる定着が求められる。また、学習意欲が低い生徒や、学校生活への見通しが持ちにくい生徒に対しては、個々の状況に応じたきめ細かな支援と動機づけが必要。 本や勉強する物を持ってきていない生徒が教室にある本を読めるように学級文庫を整え、活用を促す。
ウ	学校行事や体験学習の充実と精選を図り、自己肯定感、自己	生徒アンケート「学校行事に満足している」が80%以上	生徒アンケート80%	A	輝潮祭文化の部において、生徒の意見を取り入れたルール作りを実施した。目的やルール周知の徹底など、生徒が主体的に行動するための基盤づくりを進めたい。

様式第3号

	有用感を育む。	「土肥分校入学後、様々な活動をすることによって、少しずつ自分に自信が持てるようになった」が70%以上	生徒アンケート 87%	A	マリン実習は天候に恵まれ生徒にとって素晴らしい体験となった。学期末の行事の精選及び、活動の「プロセス」への関わりや、体験を「進路」へ接続することが次のステップ。進路ガイダンスの充実と早期からの生徒も進路意識の把握、外部団体との交流の機会の確保が急務。
		生徒アンケート「学校生活が楽しい」の“当てはまる”が80%以上。	生徒アンケート 82%	A	集団内でのコミュニケーションと個別のケアの両面で課題がある。欠席傾向にある生徒からは「楽しさ」を感じられないという意見もあり、個別のケアが必要。また、社会性を高めるために、他者とのコミュニケーション能力の向上、主体性、協働性をさらに育むための教育活動の充実を図ることも必要。
エ	家庭との連携強化を図る。	保護者アンケートにおいて「学校は保護者や地域との連携を深め、保護者や地域の理解を得ている。」が80%以上。	保護者アンケート 93%	A	各教育活動をオープンに発信することで、理解を得ることができた。更に地域と連携し、生徒を成長させる機会を増やしていく。
		保護者アンケートで「学校はホームページや土肥高通信、学年だより、学級通信等で、生徒の様子をよく伝えている」70%以上。	保護者アンケート 90%	A	主にSNSで生徒の様子を発信し続けることができた。教職員が分担することで、情報の更新が行われているが、教科や行事の担当でSNS投稿を分担するなどの仕組みづくりが必要。
オ	地域、本校、異校種との連携、協働を推進する。	地域住民アンケートで「土肥高通信を読んだことがある」が80%以上。	地域住民アンケート 91%	A	今年度も滞りなく発行することができた。教員の負担軽減のため、電子版での配布なども、地域の状況を見極めながら検討する必要がある。
		生徒アンケートで「地域の活動に参加した」または「本年度、ボランティア活動に参加した」が50%以上。	地域活動64% ボランティア 51%	A	定例のボランティアや地域のイベント参加に積極的な生徒が多く、今年度も地域との繋がりを感ずることができた。上級生の体験を下級生に引き継ぐため、アンケート等を実施し、土肥分校の伝統として継承していく。
		生徒アンケートで「災害が起きた時の準備や心構えができています。」が80%以上。	生徒アンケート 71%	B	3度の防災訓練に加え、講話を実施し、生徒の防災意識向上を図った。総合防災訓練及び地域防災訓練参加への声掛けが不足していた。近隣の自治体との連携を一層図ることで、参加者増加を目指す。

様式第3号

		生徒アンケートで「本校との交流について、積極的に参加して成長することができた。」が60%以上。	生徒アンケート 78%	A	部活動や有志団体として、本校の文化祭で活動できた。2回目以降の生徒はより自信を持って活動できていた。 少人数の集団に刺激を与えることができる機会を増やすために、本校以外の生徒との活動や協働の場面を増やしたい。
カ	校務、学校行事等の見直し、精選を行い、勤務の環境を整える。	勤務超過時間年間 360 時間以内	超過した職員はいないが、一部 360 時間に近い職員がいる。	A	業務分担を見直したり、個別に話を聞いたりするなどして、業務分担の不均衡の改善に取り組む。
		内外の安全点検を定期的実施し、危険個所の迅速な把握及び改善に努める。	法定安全点検を実施し、危険個所等の把握や学校内外の安全維持に努めた。 学校施設における事故発生数0件	A	次年度も引き続き確実な法定安全点検を実施するとともに、学校内外の安全や快適な学校環境を維持するため、生徒や教職員からの声をきちんと拾うことができるよう努める。
		教職員が、心身ともに健康で、元気に働ける職場環境を形成する。	毎月最終週を「整理整頓ウィーク」とし、職員に声をかけ、特に長期休業前に職員室や教材室の片付けや掃除を呼び掛けた。 職場の健康づくり講座を職員会議のある日の午後設定したことで、参加者を増やせた。	A	職員への日常の声かけ等を行うことで、休暇を取りやすい雰囲気を継続して作るように心がける。 職員安全衛生委員会では時季に応じた話題を取り上げて、職員の安全と健康に留意したい。